

## 『フェアトレードで発展途上国・環境を救う～商業高校生の私にできること～』

高校1年生の時に先生が、ビジネス基礎という授業で発展途上国の児童労働について話をしてくださいました。途上国の人々が作った商品は先進国に安価で買い取られ、途上国の人々は今日の生活を考えることで手一杯であるため過度な農薬使用・熱帯雨林の伐採や焼畑農業をせざるを得ず、世界規模の環境問題となっています。また、家族を支えるために危険が伴ったり休みなく働くような過酷な労働を強いられ、私達と同世代や年下の子供達が教育の機会を失い生活環境も改善されないままであるということを知り、商業を学ぶ身として出来ることはないかと考えるようになりました。

環境を保全し、途上国の人々の自立を手助けするための方法を見つけるために、JICA筑波で行われた高校生国際協力実体験プログラムへ参加することにしました。このプログラムへ参加したことで、私の考え方が大きく変わりました。参加する前は、問題解決には何よりも金銭的な援助が必要であると考えていました。しかし、貿易ゲームというロールプレイングゲームを実際に行ってみると、それだけでは不十分だと強く感じました。

このゲームでは各グループに先進国、発展途上国、持たざる国という役割が与えられ、紙をハサミやコンパスを使って決められた大きさ・形にして製品に見立て架空の市場で販売し、稼いだお金の金額を競い合います。ゲームが終わるまでは役割があることや最初に与えられた物の差がある理由については一切知らされないというルールがあります。私のグループは「持たざる国」の担当だったため、材料である紙はしわだらけ、道具や所持金も極端に少ないという状況に最初は驚きを感じました。先進国を担当したグループが順調に準備を進めていくのを見て、このゲームでは交渉をしてことを進めなくてはならないということが分かりました。私のグループは与えられた材料の条件が悪かったため仕方のないのですが、複数のグループに交渉を断られてしまい苛立ちを感じました。そしてやっとのことで定規を時間限定で貸してもらい、手作り定規を作りました。しかし、作った製品を買い取り役の人に持っていったところ「紙がぐしゃぐしゃだから買い取ることはできない。」と言われ困惑しました。途中、NGO役の人に金銭面での援助をしてもらいましたがやはり限界があり、経済格差が縮まないことから八歩塞がりとなりました。私たちのグループが結局最下位に終わったことで、金銭面以外での援助の必要性をより感じました。後に職員の方から話を聞いたのですが、このゲームは身をもって国際協力の必要性を感じてもらうことが目的だったのです。私は金銭面での援助だけではなく、自立を促すための援助に対する必要性も強く感じました。

経済格差からも広がる環境問題を解決するためには、農業指導・学校教育の普及・生活環境の設備などが挙げられるのではないのでしょうか。しかし、これらの解決策には全てお金が必要となります。今日の生活を考えることで手一杯な途上国の人々に経済的余裕はありません。他国からの援助に頼りきりではいつまでも自立することができなくなってしまいます。そこで、私はフェアトレードという方法を考えました。オーガニックなどを積極的に使用したフェアトレード製品が購入されることで、生産者の生活の質を向上させることが出来、生産性を上げるための過度な農薬の使用による環境破壊を止めることにも繋がります。フェアトレードで得た利益により、先程も挙げた農業指導・学校教育の普及・生活環境の整備が可能となります。現在の日本でもフェアトレード製品は市場に出回っていますが、購入する人は多くなく市場規模も小さいです。その理由には、フェアトレード製品は一般の製品と比べると高値であることから購入されにくいことが挙げられます。これにはフェアトレードや国際協力に対する関心の低さも関係しているのではと感じました。私は将来商業高校生として、これからの日本を担う若い人にも興味を持ってもらい、購入してもらえるようなフェアトレード製品を企画したいと考えるようになりました。例えば、多くの学校が学校祭で模擬店を出します。そこで、学校祭での販売に適し学生の目を引くようなフェアトレード製品を企画し、学校へのパンフレット配布やインターネットで宣伝します。学生にとっては模擬店を出すことを楽しむだけではなく、国際協力ができるため良い教育の一環となります。そして売上金は発展途上国・世界の環境のためになり、企業の社会的責任も果たすことができます。

高校生国際協力実体験プログラムで得たことを元にグループ内で発表内容を考え、今年の4月には科学技術イベントが開かれました。私たちのグループは児童労働に関する紙芝居の読み聞かせとフェアトレードに関する模造紙の展示を行いました。

来場者の多くは外国人の方で、特に日本人の若い人は少なく学生の来場者は1人も見かけませんでした。やはり若い人の関心を集めることがこれからの大きな課題となります。そして、このプログラム・イベントでの経験を活かして実践的に活動していこうという目標ができました。

その後は課外活動として宇都宮ジュニア未来議会へ参加し、地元である宇都宮を良くするための商品企画を市長に提案しました。

(新聞記事 <http://www.asahi.com/sp/articles/ASH863D0PH86UUHB002.html>

<http://smart.shimotsuke.co.jp/town/region/central/utsunomiya/news/20150807/2044557>)

後日、提案の実現が決まったことで地元のアンテナショップなどに協力して頂きながら、商品企画へ携われることになりました。現在はリーダーとして部会のメンバーをまとめることはもちろん、多くの人を惹きつける商品を企画出来るように、商品企画やマーケティングについて本を読むなどの勉強を続けています。今後は大学へ進学し、マーケティングを始めとした専門分野について学びたいと考えています。そして、発展途上国の人々や環境を守ることに大きく貢献出来るようなフェアトレード商品を企画するという夢を叶えたいです。